

第2章 都市づくりの課題



1. 人口動向を踏まえた都市づくりの課題
2. 産業環境の変化を踏まえた都市づくりの課題
3. 道路・交通の施設整備に関する課題
4. 土地利用に関する課題
5. 都市整備に関する課題
6. 景観・防災・防犯に関する課題

1. 人口動向を踏まえた都市づくりの課題

(1) 人口の流出抑制・流入促進

本町の人口減少・少子高齢化の傾向に歯止めをかけるため、若年層等の人口流出を抑制するとともに、子育て世代等の流入を促進するような都市づくりの推進が必要です。

(2) 高齢・福祉社会に対応した都市空間の形成

少子高齢化が進行する本町においては、医療・福祉機能の充実や、公共交通の利便性の向上、安全・円滑に移動できる歩行空間の確保など、暮らしやすさや住みやすさを考慮した都市空間の形成が必要です。

(3) 都市の効率的・効果的な維持管理

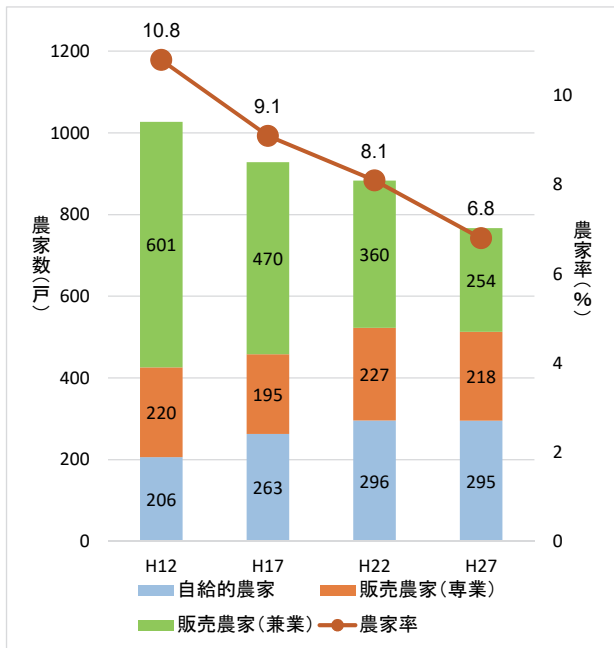
人口減少・少子高齢化への対応や社会資本の維持管理費の増大等に伴い、都市づくりにおける公共投資余力は縮小していくことが予想されます。また、都市の郊外化が進むことで、町の管理範囲が広がり、各種施設の整備費や維持管理費が増大します。

今後は、限られた財源の中で、効率的・効果的に維持管理が行えるよう、都市機能が集約した都市構造への転換が必要です。

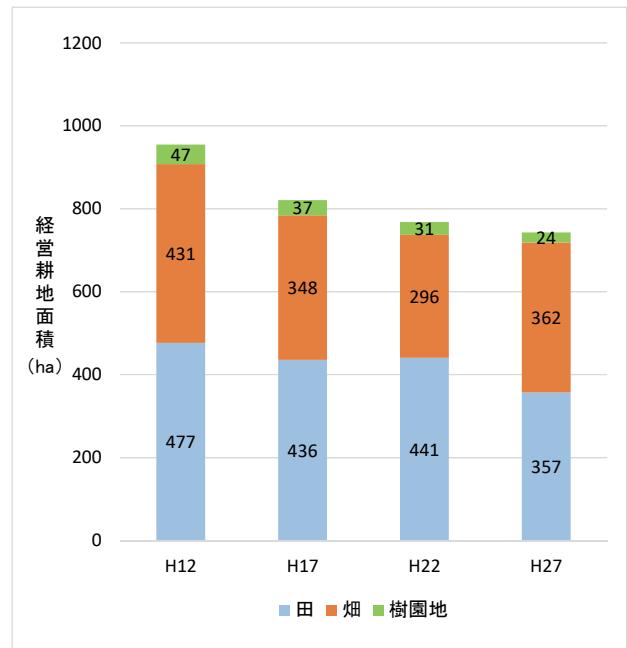
2. 産業環境の変化を踏まえた都市づくりの課題

(1) 農業環境の保全

本町の農家数は減少傾向で推移しており、経営耕地面積も減少がみられます。さらに、農業をめぐる状況は、農産物輸入の自由化、農業従事者の減少、高齢化など厳しい条件下にあり、担い手の確保・育成が難しい状況です。そのため、本町の基幹産業である農業の保全に向けた取り組みが必要です。



図表 9 農家数の推移



図表 10 経営耕地面積の推移

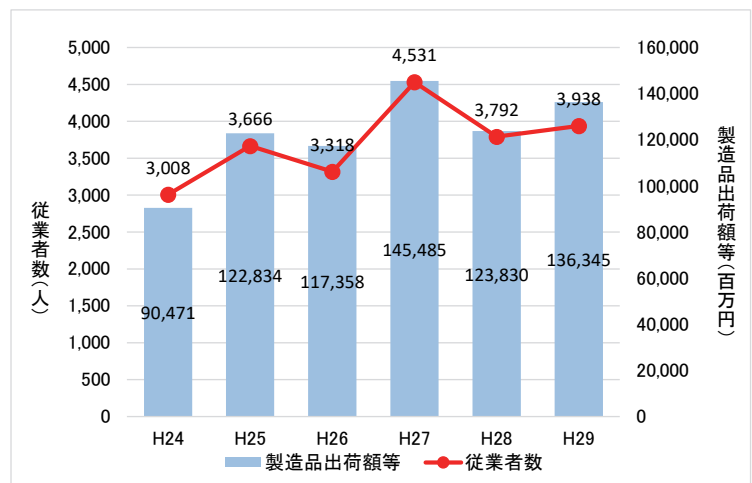
資料：H12：農林水産省「農業センサス累年統計書」
 H17：農林水産省「2005年農林業センサス」
 H22：農林水産省「2010年世界農林業センサス」
 H27：農林水産省「2015年農林業センサス」

(2) 新たな工業振興策の推進

本町の工業は、昭和56年(1981年)に県により児玉工業団地が整備され、工場の立地が進み、町の発展に貢献してきました。近年、減少傾向にあった従業者数、製造品出荷額等は、平成24年(2012年)を境に増加傾向に転じており、今後も新たな工業振興策を推進する必要があります。

図表 11 製造品出荷額等

資料：H24～26年、H28～29年：工業統計調査
 H27：経済センサス-活動調査 製造業に関する調査結果

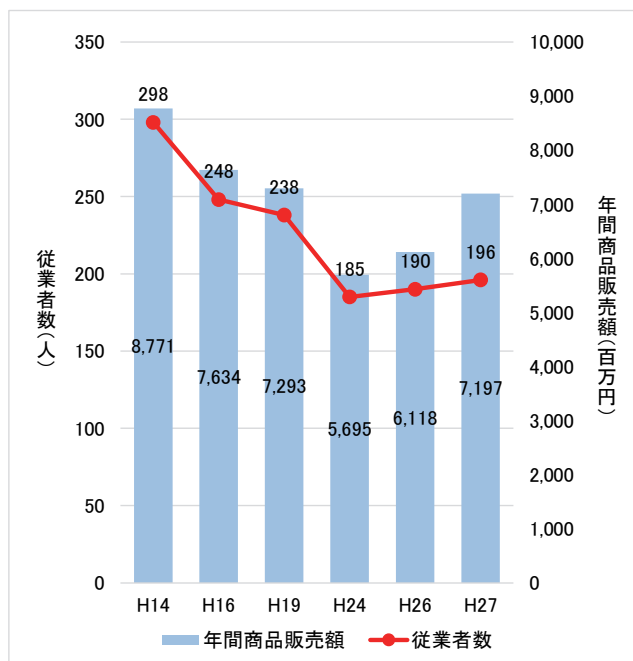


(3) 商業環境の魅力向上

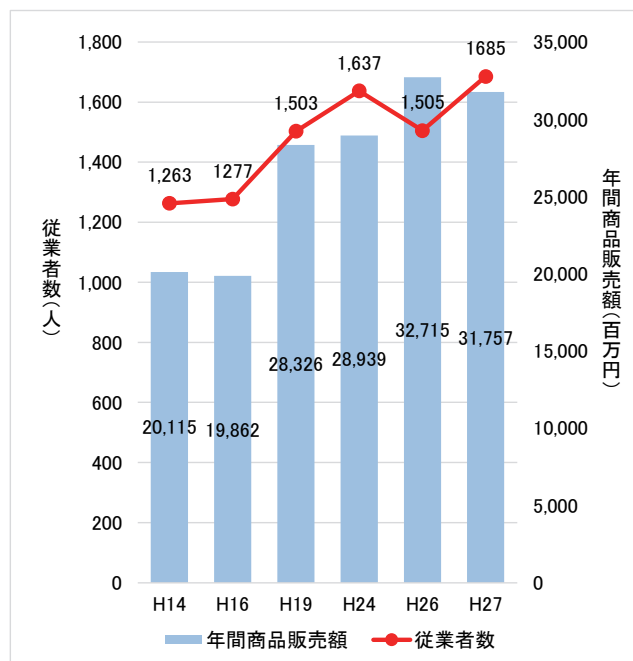
本町の商業は、自営小売店舗での食料品・日用生活品等の販売、大・中規模のスーパー・ショッピングセンターが主体となっています。住民アンケート調査によれば、食料品・日用雑貨、衣料品等の毎日の買いものは町内で済ませるとした回答者は約73%になり、かなりの需要がみられます。

従業者数及び年間商品販売額の推移をみると、卸売業は概ね減少傾向、小売業は概ね増加傾向にあり、小売業中心の商業構造がうかがえます。

今後は、現在の商業構造を大きく変えることなく、町民の生活に密着した良質な商品やサービスを持続的に提供していくとともに、上里スマートインターチェンジ周辺の観光商業にも力を入れ、広域的な集客を見込める環境づくりと、商業・サービス業全体の魅力向上が求められます。



図表 12 卸売業の推移



図表 13 小売業の推移

資料：H24 経済センサス-活動調査 卸売業、小売業 産業編（2月1日現在）
 H27 経済センサス-活動調査 卸売業、小売業 産業編（6月1日現在）
 H11, 14, 19, 26 経済産業省 商業統計表（7月1日現在）

3. 道路・交通の施設整備に関する課題

(1) 都市活動と連携した利便性の高い道路交通環境の形成

本町の道路網は、国道 17 号及び国道 254 号の 2 路線と主要地方道上里鬼石線、藤岡本庄線及び一般県道の 2 路線により幹線道路網を形成しています。また、新たな幹線道路として、国道 17 号バイパス（本庄道路）の整備が進められています。

平成 27 年（2015 年）度道路交通センサスによれば、国道 17 号及び国道 254 号においては日常的に混雑しており、産業活動や住民生活に影響を与えていることから、町内交通及び圏域交通の円滑化や安全性の確保に向けた取り組みが必要です。

(2) 生活道路の整備と安全性の確保

生活道路としての町道等については、生活道路網の充実を図るため、町道整備を年次計画で進めています。さらに、市街地においては都市計画道路の整備を進めています。

今後は、生活道路の質的な向上と安全性の確保が必要です。

(3) 公共交通の利用促進

本町の公共交通機関は、鉄道では J R 高崎線が通っており、町内に神保原駅が設置されています。また、バスはコミュニティバスが運行され、町内各方面を連絡しています。

鉄道については、J R 高崎線の利便性の向上に向けて、神保原駅へのアクセス性の向上や増便等に向けた協議を引き続き進める必要があります。

コミュニティバスについては、町民の身近な交通手段としての認識に立ち、維持・確保と利便性の向上に努める必要があります。

4. 土地利用に関する課題

(1) 都市機能集約型の都市づくり

将来にわたり持続可能な都市への転換を図るためには、施設や各種機能が集約し、誰もが生活に必要な機能を容易に利用できる市街地の形成が重要となります。

本町は、神保原駅周辺を中心に市街地が広がってきましたが、近年は、町の中心市街地よりも市街地郊外に住宅や商業施設の立地が進み、市街地が拡散傾向にあることから、各種施設の整備費や維持管理費の増大等が危惧されます。このことから、拡大拡散型の都市づくりから都市機能集約型の都市づくりに転換していく必要があります。

(2) 神保原駅周辺の魅力づくり

神保原駅の北側周辺は、町の中心市街地として店舗等が立地していますが、その数は減少しており、駅前通りや旧中山道沿いの商業的土地利用は少なく、住宅地として姿を変えつつあります。

一方、神保原駅の南側周辺では、神保原南土地区画整理事業により駅前広場や都市計画道路の整備、良好な住宅地の供給などが行われていますが、駅前広場の周囲や駅前通沿道において低・未利用地が残っています。

今後は、町の玄関口として、神保原駅周辺の魅力づくりに努めていく必要があります。



〈神保原駅〉

（３）上里サービスエリア周辺の拠点づくり

上里サービスエリアの上里スマートインターチェンジ周辺は、「上里サービスエリア周辺地区整備事業」が進められており、今後、新たな拠点としてポテンシャルの高い地域です。今後は、観光交流の拡大、地域産業の活性化や雇用機会の増大などを目指し、上里サービスエリア周辺の新たな都市づくりが求められます。

5. 都市整備に関する課題

（１）町民ニーズに対応した公園の整備

本町の市街地における身近な公園は不足しており、住民アンケート調査でも公園に対するニーズは高くなっています。そのため、日常的なレクリエーションの場として、子供から高齢者まで誰もが利用しやすい公園整備を進めていくことが求められます。

（２）下水道の整備

本町では平成6年（1994年）に公共下水道の全体計画を策定し整備を進めており、今後も下水道認可区域において計画的な整備の推進が必要です。

6. 景観・防災・防犯に関する課題

(1) 市街地の良好な景観の形成

本町の魅力を高めていくため、市街地や幹線道路沿道等において、適切な景観の形成・誘導が必要です。

(2) 農村景観の保全

市街地以外の集落地では、秩父連山・上毛三山を望む美しい景観が広がっています。近年では小規模な宅地開発や耕作放棄地の増加等により農地が減少しており、美しい農村景観への影響が懸念されます。

本町の美しい景観を将来に引き継いでいけるよう、美しい農村景観の保全に向けた取り組みが必要です。

(3) 河川等の水辺環境の保全

近年、河川は、治水、利水とともに、親水面の役割の重要性が高まっており、河川改修等の治水事業や水に親しむための取り組みなど、多方面での水の利用を進めています。こうした取り組みを一層進め、水辺空間の治水性、利水性、親水性の向上を図っていく必要があります。

(4) 防災や防犯に配慮した都市づくりの推進

安全・安心社会の構築に向け、自然災害からの被害をできる限り減少させる防災・減災の都市づくりや、防犯の視点を取り入れた都市づくりが必要です。